

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101518&SCD=320&PCD=30>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りと利用者とのコミュニケーションを大事にし、家族様とも積極的に関わりを持ち信頼関係を築けるように努めています。
1日1日を大切にしその人らしく過ごして頂けるように、職員全員が利用者1人ひとりの思いや気持ちを表せるように支援しています。 自分でできることはして頂くように取り組み、ふれあい教室、お茶会、デイサービスの行事に参加させて頂き、又、ドライブ、買い物、散歩、外食支援を行い気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する特別養護老人ホームと同じ敷地内にある。その人らしい生活が送れるように、自分でできることはできるだけ自分でできるようサポートしている。地域の保育所の催しには職員と共に参加しており、法人主催のふれあい教室には地域の子供たちも参加するなど、地域との交流の機会がもたれている。食事は入居者の好みにも配慮し、調理、片づけも出来るだけ入居者と一緒に行い、個々の持てる力を発揮できるよう取り組んでいる。職員は温かい気持ちを持ち、入居者の立場で話を聞く事を大切にしており、入居者本意のケアに前向きに取り組む姿勢がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時職員全員で理念と今月の目標を唱和し共有を図っている。ミーティングでは理念に基づきに入居者のケアについて話し合っている。	ホーム独自の理念を玄関の目につきやすいところに掲げている。又、その人らしさを大切にすることを基本にした毎月の目標を事務所内に掲げ、理念と共に朝のミーティング時に確認し、入居者のケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の運動会に参加しています。又、事業所主催のふれあい教室、夏祭り等の行事に参加される地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。秋祭りには、獅子舞を見せに来てくれています。	地域の保育所の運動会には毎年声がかかり参加している。散歩の時などには近隣の住民に挨拶を欠かさないように努めている。法人主催のふれあい教室や夏まつりなどは地域住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族様にデイサービスでの介護教室参加を呼び掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では包括委員、民生委員、家族様が自由に意見を出し合い希望や要望をひとつずつ実現できるよう努力している。	2ヶ月に1回開催されており、その中で年2回は全家族に案内を出し家族会議も兼ねて行なっている。会議に出された意見は検討し、サービス向上や日頃のケアに生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者和との情報交換は運営推進会議に留まっている。	市の担当者とは事務手続きの際以外に会って話す機会はほとんど持たれていない。	ホームの現状を発信したり、その他の情報を聞いたりできる関係を築いていけるよう、機会がある毎に連絡、相談等の働きかけを行なう工夫を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。日中は鍵をかけず安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	日中玄関の鍵はかけず職員の見守り体制の工夫で、安全に配慮して自由を妨げないようにしている。勉強会などでも拘束はしないとい基本を守り、言葉の拘束にも気をつけて職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用しています。家族様には必要に応じ制度がある事を説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、再度利用料金、重度化に伴うリスク、事業所のケアに関する取り組みや考え方を十分な時間を取り説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様の参加を呼びかけ外部者へ意見を表せるようにしている。年2回の家族会には運営推進会議を行い、要望や意見を出して頂いている。	家族会議を運営推進会議と兼ねるようにしてからは以前より意見が出やすくなった。家族会を日曜日に設定するなど、会議に出やすいよう工夫しているが、参加する家族は毎回同じ顔ぶれが多くなっている。	家族からの意見を運営に反映できるように、家族の来訪時に話し合う機会を設け、家族会議には多くの家族が参加できるよう、開催日時や議題設定等の工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞くと共に個別に要望等を問いかけている。	自由に発言できる環境を心がけ、管理者が個人的に声をかけ、職員の要望や意見などを聞くこともある。職員から出された意見を大切に検討し、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて実績の評価今期の目標を記入し、自由記述にて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や、同法人の相互訪問の活動を通じサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人様の話をよく聞き、希望する事不安に感じる事を把握し、GHでの活動が安心出来ることを納得して頂けるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族関係やこれまでの家族の歴史などお聞きし、家族様の意向に沿えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のこれまでの生活の継続が出来るよう支援体制をとる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ役割分担をして頂きながら、24時間共同生活を営んでいる。大家族のように過ごし、落ちついて過ごしやすい環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ、本人様の様子を伝え又、どのように暮らして欲しいと願っているか意向をお聞きし、家族様の協力のもと、本人様を支える支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂けるように、こまめに様子報告を行い、本人様が希望している事を伝え、実現出来るよう支援している。	本人の希望を家族へ伝えて、来訪や家族との買い物や帰宅に繋げ、馴染みの関係が途切れないように支援している。入居者の友人がディケアにきている時は来訪してもらうことも検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、馴染みと感じている人、大切な人は誰か、見極め上手に関わりあえるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、面会に行ったり電話等で様子を伺うなど、アフターケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中で本人様に問いかけたり、うまく伝えられない方には、その時々の表情や言動から推し量るなどして把握に努めている。	日々の関わりの中で寄り添うケアを心がけ、昼間にゆっくり話を聞けないときは夜勤の時に聞くようにして、思いを知る努力をしている。入居者の言葉は生活シートに記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方について、予めシートに記入して頂いたり、折に触れ、家族様や利用者本人様から聞き取ったりして、少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を1日の流れの中で捉え、心身の状態や本人の出来る事・分かる事に注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良く暮せるよう、本人様・家族様の思いや意向をふまえて話し合い、介護計画を作成している。利用者がより良く暮せるよう、本人様・家族様の思いや意向をふまえて話し合い、介護計画を作成している。	本人や家族の意向も取り入れ、今その人に何が必要か職員間で検討し、その人らしさを大切にして介護計画を作成している。状況により1ヶ月～3ヶ月に1回モニタリングを行い計画内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれについて、生活の様子や心身の状況、ケアの実践と結果などを記録し、職員間で情報を共有して見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、特変時でも訪問診療や訪問看護を利用しながら、出来る限り本人や家族の望む生活を継続していけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、教育機関や地域のボランティアなどと協力しながら、安全で豊かな暮らしが送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族様の希望によりかかりつけ医を選んで頂いている。家族様と協力し、通院介助を行ったり、往診に来て貰うなど、複数の医療機関との関係を密にして、適切な治療を受けられるよう支援している。	入居者、家族の希望するかかりつけ医となっていて、定期的な往診もあり、状況に合わせて臨時に依頼する支援もしている。必要に応じて通院介助し家族へ連絡、報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師と気軽に相談しながら日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行なえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、利用者が出来るだけ安心して過ごせるよう、また出来るだけに早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人様、家族様、主治医、看護師などと早い段階から話し合いを行っている。本人様や家族様の意向をふまえた上で、主治医・看護師・介護職員が連携し、今後の変化に備えチームとして取り組んでいる。	入居時に、グループホームでできる医療的処置の範囲を伝え、重度化した場合には系列の特別養護老人ホーム入所の支援も行っている。その状況に応じて話し合いを重ね、医師とも相談し、家族の意向を聞き対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署などの協力を得て、他部署合同で定期的に救急法などの訓練を行っており、グループホーム内でも勉強会をして実践に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練や救急法の講習会を設けている。職員には、災害時の役割分担をきちんと決めている。	避難訓練は法人全体で年2回しているが、地域住民の参加はない。災害時の避難場所は敷地内にある法人施設の3階になっている。備蓄は特別養護老人ホームで管理している。	防災に関して家族からも不安の声が上がっており、地域の人も巻き込んで、避難経路の安全確保や避難訓練を行えるよう地域に働きかけることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	入居者一人ひとりの個性を尊重しながら、共同生活であるホームでの暮らしを支援している。職員は入居者の人格を尊重し、プライドを傷つけないように柔らかい口調で声かけするよう配慮してお互い注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食に出掛け好きな食べ物を選択できるようにしています。月1回のおやつ選択日にも好きなおやつを選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の方に来て頂き、希望の利用者が好きな髪型に切って頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を聞きながら職員が考えている。利用者に食事作りを手伝って頂き、職員も一緒に食事を楽しんでいます。	入居者の好みを取り入れ、食事制限があっても食事を楽しめるよう工夫している。料理、片づけも一緒に行い職員と共に食事を楽しめるよう配慮している。外食の機会も設け、希望しない人の食事にも工夫を試みている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量食べられた量栄養バランスに注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、ポリデント洗浄のケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、負担にならないような誘導、声掛けを行っている。個々のチェック表を把握し、気持ちよく排泄できるように取り組んでいる。	排尿、排便チェック表を活用し、個々のパターンをつかんでトイレに誘導している。トイレで汚れ横のふる場に移動するようすがリビングの方向から目につきやすくなっている。	羞恥心に配慮し、周囲の人の目にとまらないような対応や工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘予防に水分強化、ヨーグルトや散歩の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の入りたい時間やタイミングに合わせて入浴して頂けるように個々に沿った支援している。	希望の時間に入浴できるように配慮している。夜間の入浴については、運営推進会議に諮ったところ特に希望する家族がなかったので、現在行っていない。入浴を拒む場合は無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂けるよう促し、利用者一人一人状態に応じ生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容を付けお薬の目的・副作用を提示し職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの日々の生活を楽しく過ごしてもらえるように、好きな歌や買い物、ドライブ、散歩等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等日常的に外出支援をしている。本人希望を把握し家族様の協力を頂き出かけられるように支援している。	希望者には月一回外食の機会を設けている。家族の協力を仰ぎ外出や帰宅に繋げ、ホームからのドライブは職員の体制を考えながら交互に全員行けるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4名の方はお金を持たれているので、買いたい物があればなるべく当日買い物に行くよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様が使用したい時に、すぐかけられるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ダイニングなど季節感をとりいれて、見て喜んで頂ける空間づくりを工夫している。	窓からの日差しが明るく、ブラインドで調整して入居者への刺激に配慮している。食事のテーブルだけではなく、テレビを見てソファでくつろげるようにし、それぞれの入居者の居場所を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり利用者の方が自由に気楽に過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好きな物や落ち着く物などを置き居心地のよい空間を作れるように工夫しています。	居室には洗面台、クローゼット、ベッドが備え付けられている。本人の使い慣れたものや家族が持って来たものが置かれ居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者の方の力でできる事を大事に活かし、できるだけ自立できるよう工夫しています。		